

# 駆け抜けて勝ち取った 四国総体の 舞台へ！

※他校の生徒・一般観覧者の肖像権保護のため写真省略。

▲県総体 110mH の決勝 (撮影：新聞・文芸部員)

徳島県高校総体の陸上競技は、五月三十一日から六月二日の三日間行われた。陸上競技では、短距離や長距離、走り高跳び、やり投げなど様々な種目が行われていた。500メートルに出場していた齋藤選手は、最近までケガをしていた同じく500メートルの大寺選手と、「絶対負けないという気持ちで予選を勝ち抜き、決勝で一緒に走る」と語っており、その宣言通り決勝で一緒に走っていた。

白川開世選手は110メートルハードルに出場し、15秒26という自己ベストを更新。見事三位となった。「一年ぶりに自己ベストを更新した。もつといい記録が出せていたかもしれないが、素直にうれしい」と語った。また、走る前にはちまきの内側に書か

れた仲間たちからのメッセージを見て感動し、より頑張ろうと思えたとうれしそうに語ってくれた。白川選手に、この日のためにしてきたことはあるかと尋ねると、「この日のために減量をして、大会までの一週間はひたすらハードルを飛んでいた。優勝できなかったことがとても悔しいけど、四国で15秒を出してインターハイに行きます。」と笑顔で目標を語ってくれた。白川選手は400メートルハードルにも出場しており、「予選を勝ち抜き、同じく400メートルハードルに出場している大牛選手と決勝で一緒に走って二人で表彰台に上がり、四国に行きたい。」と語ってくれた。惜しくも、白川選手は400メートルハードルでは予選落ちをしてしまったが、その時に大牛選手に

★陸上部県総体記録★

男子走跳(優勝)佐藤悠月

男子やり投(優勝)七條羽瑠

(4位)東條悠聖

男子110mH(3位)白川開世

男子400mH(3位)大牛晟志

男子ハンマー投

(5位)大伏奏太

(6位)七條羽瑠

男子砲丸投(6位)大伏奏太

女子やり投(準優勝)日野暖奈

女子800m(5位)村田歩夢

女子走高跳(6位)瀧紗央莉

★陸上部四国総体結果

(IH出場決定)★

男子走跳(2位)佐藤悠月

男子やり投(6位)七條羽瑠

※他校の生徒・一般観覧者の肖像権保護のため写真省略。

## 柔道男子団体 県総体十二大会連続優勝を飾る

六月一日(土)・二日(日)にかけて、第六十五回徳島県高校総合体育大会柔道競技が鳴門市の鳴門ソイジョイ武道館で行われた。

一日の男子団体戦では決勝で徳島科学技術高校を破り、十二大会連続二十五度目の優勝を飾った。主力の三年田村が怪我で欠場した今大会であったが、団体戦の決勝では先鋒の森本が優勢勝ちした後、次鋒から大将まで

は全て一本勝ちの完勝であった。二日の男子個人戦では、100kg超級優勝の今井丈太郎をはじめ、男子100kg級優勝の横関奏侑、男子60kg級優勝の三井公瑛、男子81kg級優勝の森本奉成、男子66kg級優勝の西村豪毅など、多くの選手が優勝・準優勝となった。

見据える先は全国大会での勝利。阿波高校全員で柔道部の活躍を応援したい。

(文責：顧問)



## 阿波高新聞

6月号

編集

新聞・文芸部

209号



つれづれなるままに…

～阿波高新聞部のひとこと～

五月三十一日ポカリスエットスタジアムの陸上競技場では高校総体という全国制覇にも繋がる大会が行われていた。

各々記録を出すために奮闘していた。それはまるで夢に向かって走っているようだった。風が強く、選手達の思うような結果が出るかがとても気になったが、そんな心配をしている間にピストルの音が鳴り響いた。

選手は一斉に走り出す。数多くの選手がいるはずなの

に、私には阿波高生の姿しか目に入らなかった。きつと、阿波高を思う気持ちと同じだったからだろう。ゴールに辿り着いた選手はとても輝いて見えた。歓声が飛び交い、歓声の大きさに圧倒された。選手達はやり切ったという清々しい顔をしていた。選手達の姿はたくさんの人に勇気を与えてくれるだろう。

(文責：竹内麗衣名)